

令和5年11月18日(土)、小樽市立美術館研修室にて小樽市と共催の第40回公開市民講座を開催しました。一般参加者、関係者を含めて83人の多数の参加を頂きました。「公開市民講座」は北海道能開大が取り組む調査研究活動や地域との取組み、最新の技術動向などについて分かりやすく解説する講座です。

今回のテーマは「記憶を拓く ～運河のまち小樽～」、小樽運河竣工100周年の記念の年、小樽の景観をつくる数々の歴史的建造物について、3名の先生方にご講演頂きました。歴史やルーツを知ることで、見慣れた小樽の景色が違って見える。まさにタイトルの「記憶を拓く」ができたのではないかと思います。北海道能開大では、小樽市とも連携しながら、こうした取り組みを続けていきます。

第40回公開市民講座ポスター



「建築家W. M. ヴォーリズが大正期に小樽に設計した宣教師F. ケーリー邸は存在したのか？」
建築施工システム技術科 正田先生の講演と展示の様子



「小樽市北運河に近くに建つ「旧日本郵船(株)支店長社宅」について 一学生達との2年間の調査報告～」
建築科 諸澤先生の講演の様子



「運河・石造り倉庫の特色とルーツを探る」
建築史家、当校特別顧問 駒木先生の講演の様子